

12  
TBP-03

ACE-k  
2012.07.01

# Kampf Mädchen

戦渦のマリア

Maria in a turmoil of war





**Master Card Systems**

# Contents

Chapter.06 Alexandra

Chapter.07 Air-borne Assault act.1

Chapter.08 Air-borne Assault act.2

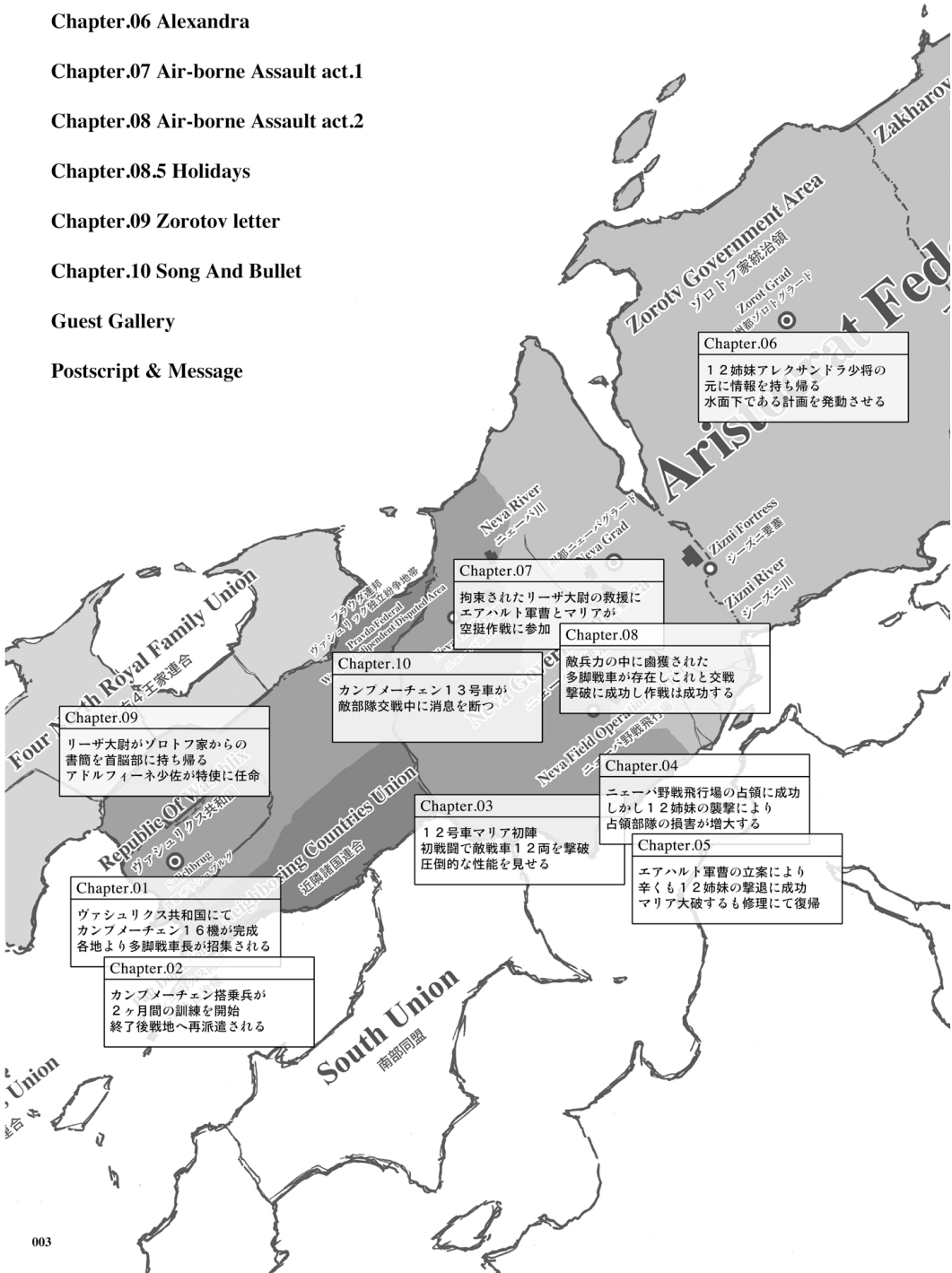
Chapter.08.5 Holidays

Chapter.09 Zorotov letter

Chapter.10 Song And Bullet

Guest Gallery

Postscript & Message



**Chapter.06**  
12姉妹アレクサンドラ少将の元に情報を持ち帰る  
水面下である計画を発動させる

**Chapter.07**  
拘束されたリーザ大尉の救援にエアハルト軍曹とマリアが空挺作戦に参加

**Chapter.08**  
敵兵力の中に鹵獲された多脚戦車が存在しこれと交戦撃破に成功し作戦は成功する

**Chapter.10**  
カンメーチェン13号車が敵部隊交戦中に消息を断つ

**Chapter.09**  
リーザ大尉がソロトフ家からの書簡を首脳部に持ち帰る  
アドルフィーネ少佐が特使に任命

**Chapter.04**  
ニューバ野戦飛行場の占領に成功しかし12姉妹の襲撃により占領部隊の損害が増大する

**Chapter.03**  
12号車マリア初陣  
初戦闘で敵戦車12両を撃破圧倒的な性能を見せる

**Chapter.01**  
ヴァシュリクス共和国にてカンメーチェン16機が完成  
各地より多脚戦車長が招集される

**Chapter.05**  
エアハルト軍曹の立案により辛くも12姉妹の撃退に成功  
マリア大破するも修理にて復帰

**Chapter.02**  
カンメーチェン搭乗兵が2ヶ月間の訓練を開始  
終了後戦地へ再派遣される

# 登場人物紹介



## ヴァシュリクス共和国

15世紀初頭に勃発した西方覇権戦争によって勃興した大陸北西部に位置する国家。西方覇権戦争時に戦渦を逃れた難民と東方からの移民が最後に辿り着いたヴァシュリック山脈がその中核となる国土となっているため土地の約8割が山地である。その出自からも周辺国からの根強い差別を受け続けている。

過酷な環境を克服すべく産業革命後は積極的な産業の機械化を行い20世紀初頭には圧倒的な科学技術及び工業力を背景に加工貿易によって大きく財を成す。しかしこれを脅威と感じた近隣諸国が近隣諸国連合を発足させ貿易摩擦における制裁として周辺国からの加工原料の輸入を停止した事により軋轢が増大する。時を同じくして外圧からの開放を掲げる急進派がヴァシュリクス政権を奪取し独裁体制を確立。親ヴァシュリクス派国家の弾圧にまで及んでいた近隣諸国連合に対し1937年末に「親ヴァシュリクス派国家の保護」を理由に共和国と連合間で戦端が開かれ1938年に近隣諸国連合に対する武力行動を開始。西方大戦の引き金を引く事となる。

## 第12独立実験小隊



エアハルト・ハイデッガー

ヴァシュリクス東部派遣軍  
第4装甲兵団内第12実験小隊

自立思考型二足歩行戦車「カンパーメーション」の12号車に搭乗する元多脚戦車小隊長。  
多脚戦車の運用と戦術に才覚を発揮し小隊長時代はその技量から「東軍の雷撃」の異名を誇るユースであった。



マリア

ヴァシュリクス東部派遣軍  
第4装甲兵団内第12実験小隊

ヴァシュリクス共和国が兵員の不足を補うため研究を進めた末に完成させた自立思考戦車「カンパーメーション」の12号車。  
その圧倒的な機体性能から西方大戦当時陸軍最強兵器の名をほしいままにした。

## 第4装甲兵団



クラウス・デーニツ

ヴァシュリクス東部派遣軍  
第4装甲兵団内独立多脚戦車大隊

多脚戦車小隊クラウス大隊長で元エアハルト隊の副隊長後任として部隊を引き継いだ。堅実かつ慎重な性格で部下の安全を第一に考える。



ハインツ・アドリオン

ヴァシュリクス東部派遣軍  
第4装甲兵団内独立多脚戦車大隊

クラウス隊2号車の戦車兵をつとめる。飄々としたスタンドプレー好きの優秀な撃破数は小隊長一。軍隊には忠実だがクラウスとは異なる相違点がある。なんだかんだ言いつつも熱い。



アヒム・クローデン

ヴァシュリクス東部派遣軍  
第4装甲兵団内独立多脚戦車大隊

元エアハルト機の操縦士だった小隊再編成時にクラウス隊3号車の戦車長に昇進した。純粋で心優しいタイプのリーダーであり昔ながらの頑固な影響で本人も素直をたしなみ顔には誰とも認めない。



オリバー・ダイスラー

ヴァシュリクス東部派遣軍  
第4装甲兵団内オリバー中隊

好戦的で豪快な性格をしている勇敢な戦車中隊長。国策守備隊時代からの軍人で戦場主義の印を叩きつけている。軍隊には忠実だがクラウスとは異なる相違点がある。家族想いで子供達に良い父親でもある。

## 中央情報軍



アドルフィーネ・キルヒアイゼン

中央情報軍外部情報局二課室長

共和国總統ツェーガールの一人娘。19にして実力で今の地位を手にした才女大誌不敵であり恐れを知らない性格である。士官学校同期で同時に部下でもあるリーザ大尉は同性ながらも恋愛関係を築いている。境遇からかアレクサンドラに強い興味を示す。




リーザ・オークレール


中央情報軍外部情報局二課


アドルフィーネの忠臣にして恋人。士官学校時代は主席次席のライバルだった。彼女がある任務から持ち帰った書類は「ソロトフ書簡事件」と呼ばれる歴史の大きな転換の切っ掛けとなる。


## 共和国軍首脳部


	ツェヴァル・キルヒアイゼン
	ヴァシュリクス共和国総統
	ヴァシュリクス国家元首兼共和国軍統合元帥。愛国心溢れる厳格な人物でありその才覚は政治経済を始め軍事にまで及ぶ。立ち振る舞いはある種のカリスマ性を宿し、そのためか数多くの協力者に恵まれており、自他ともに厳しくともその人望は極めて厚い。


	ダグマル・ダーヴィッド
	ヴァシュリクス海軍最高司令官

	シャルロッテ・アーレンス
	ヴァシュリクス空軍最高司令官


	ブラージュス・ダムマイヤー
	陸軍多脚戦車大隊最高司令官


	クリステル・エイセル
	中央情報軍ベネディクト中将付参謀


	ボリス・ファッタ
	陸軍コンラッド大将付参謀


	レオノーレ・ラングニック
	陸軍多脚戦車大隊ブラージュス大佐付参謀


	ベネディクト・ヘルフリッヒ
	中央情報軍最高司令官
	ツェヴァルの政治活動初期からの協力者でありアドルフイーネを情報軍に招いた人物。彼女の患いる外部情報局2課の能力に大きな信頼を寄せておりリスクの高い任務に積極的に投入しているため、総統側近からは反発の声も上がっている。

	コンラッド・グリースバッハ
	ヴァシュリクス陸軍最高司令官

	ブルクハルト・エツティングァー
	神聖バルト公国義勇兵団団長


	トーマス・ポップ
	神聖バルト公国義勇兵団副団長


	チャールズ・ディーン
	海軍ダグマル大将付参謀

	ギラ・フリードハイム
	空軍シャルロッテ大将付参謀

## 航空海軍

	ナオ・エメリッヒ
	ヴァシュリクス航空海軍 第7航空輸送艦隊
	超大型輸送艦「ヴァットフィッシュ」で構成される輸送部隊を率いて、縦横無尽の活躍を告げその姿を知れている。同級民間型のハイロット出身であり操縦技術においても有能である。その機体を増知した高次元情報からマシジャンと噂される。

	オウリ・ティエン
	ヴァシュリクス航空海軍 第7航空輸送艦隊

	フィアン・ティエン
	ヴァシュリクス航空海軍 第7航空輸送艦隊



## ブラウダ貴族連邦

大陸北部を覆う様に存在する世界最大の大国。ヴァッシュリクス勃興時には既にその存在を世に轟かせていた強大な帝国であった。

しかし数世紀に渡る統治の末に少しずつ腐敗して行った帝政は政治を巡る数多くの問題が横行していて次第に暴政化し国民がその圧政に追いつめられていった末に帝政に対する不信感が募っていった。この事態を重く見ていたのは国民だけではなく帝政の古くからその地方統治を任されてきた七大貴族もまたその暴政に頭を悩ませていたがその中最ゾロトフ家が民衆主導による政治の転換を掲げ反叛を翻した事で事態は一変し国民と七大貴族が結託する形で革命が起こり帝政は打倒される。しかし革命後のその膨大な利権にゾロトフ家以外の六貴族が裏切る形で利権獲得に奔走し始めた末に反発する民衆の大粛正が行われたと同時にゾロトフ家もまた厳しい監視下に置かれた。現在は貴族による分断統治という革命当初とは大きくかけ離れた歪んだ政治体系となっている。

## ゾロトフ一族

	<b>アレクサンドラ・U・ゾロトフ</b>
	<b>ブラウダ連邦ゾロトフ駐留軍兼ゾロトフ装甲騎士団最高司令官</b>
	当主ウラジミールの娘でゾロトフ駐留軍を若くして取り仕切っていると同時に水面下では監視の目をかくくもり数々の秘密作戦を指揮する。確固たる意思と行動力に生来のカリスマ性を備え一族の悲願のために時代をひた走り続ける。

	<b>ヴィクトール・U・ゾロトフ</b>
	<b>ブラウダ連邦ゾロトフ家当主代行</b>
	当主ウラジミールの息子でアレクサンドラの兄。監視体制のもと実質軟禁状態にある父親に代わり領内の統治の全権を代行している。父親譲りの政治手腕以外にも領内のインフラ整備に高い能力を持ちその手腕から領民に慕われている。

## ゾロトフ装甲騎士団「12姉妹」

	<b>ユリア・サフィン</b>
	<b>ゾロトフ装甲騎士団12姉妹隊長</b>
	アレクサンドラ付の私設軍隊12姉妹の隊長公私ともにアレクサンドラに絶対の信頼と忠誠を誓っている。29年蜂起事件で家族が他界したため孤児としてゾロトフ家の保護を受けていた。妹のルフィーナも同じく保護下にあった孤児であり血は繋がっていない。

	<b>ルフィーナ・サフィン</b>
	<b>ゾロトフ装甲騎士団12姉妹隊員</b>
	兵士としては甘さか冴る所もあるが12姉妹が情願する多量戦術を始めとする兵器の情報を記憶しており整備において必要不可欠な存在。自分よりも常に相手の事を先でしようも優しい少女。

	<b>アンナ・ユリエヴナ</b>
	<b>ゾロトフ装甲騎士団12姉妹隊員</b>
	12姉妹最年少でユリアやルフィーナと同じく保護下にあった孤児。幼い頃から共にウラジミールと暮らしていた。生まれの当てる持つ有能な戦術力を持つ。


	<b>アンジェリカ・プリセツカヤ</b>
	<b>ゾロトフ装甲騎士団12姉妹隊員</b>
	新儀の生まれで努力によって短くして名門の士官学校に入学した。その2メートルを超える体格と男勝りな豪快な性格だが料理が得意であり12姉妹の改革を引き受けするなど家庭的な面も持つ。以降フェウリーヤに恋心も似た憧れを抱いている。

	<b>タチアナ・サルマノフ</b>
	<b>ゾロトフ装甲騎士団12姉妹副隊長</b>
	12姉妹の副隊長を務める元正規軍軍曹。同僚だったガリーナ・ナゲスダ・アヴドーナと共に12姉妹の攻撃面を支える。戦場では勇気と恋愛小説を読む事。

	<b>ナデズダ・スースロフ</b>
	<b>ゾロトフ装甲騎士団12姉妹隊員</b>
	対戦相手長を倒した持ち部隊唯一の体格を誇る兵士。その2メートルを超える体格と男勝りな豪快な性格だが料理が得意であり12姉妹の改革を引き受けするなど家庭的な面も持つ。戦場ではストレスを溜めたいという事を持つ。

## ゾロトワ装甲騎士団「12姉妹」

	ガリーナ・ロザノフ ゾロトワ装甲騎士団12姉妹隊員
<p>タマリを愛するカサツの口がきつい素行不良の軍人だが、命懸けと犠牲において良親の保護を誓う。 固く思う気持ちで強く、民衆を守りたい一心で軍に入隊した経緯を持つ。 アヴドーチャとは正反対の性格をしているが不思議と仲が良い。</p>	

	アヴドーチャ・スタルノフ ゾロトワ装甲騎士団12姉妹隊員
<p>絵に描いた様な端正の軍人風で厳格な人柄だが射撃部隊をしている。 ガリーナ以外には余り表情の起伏を見せず近付き難い印象がある。 自らの意思は強固に任務を的確に行う事に専念を持つ。</p>	

	ソーニャ・シュメイコ ゾロトワ装甲騎士団12姉妹参謀
<p>ゾロトワ家に古くから仕える騎士の家系の出身。 自身もレオパルドに仕える事に誇りを持っている。 12姉妹においては作戦の立案と補給を担当する。 歴史書を讀むのが趣味。</p>	

	オルガ・ザハロフ ゾロトワ装甲騎士団12姉妹隊員
<p>ゾロトワ家とつながりがあった陸軍機「ザハロフ家」の長男と結婚しては第一子を産んでいるが一時婚姻を離脱する事が決定している。</p>	

	ツェツィーリヤ・ゼルマノフ ゾロトワ装甲騎士団12姉妹隊員
<p>士官学校ではアンジェリカの先輩に当たり差別や社会的地位を努力で克服するアンジェリカの姿に感銘を受け手を差し伸べた。 以来アンジェリカを愛する妹の様に可愛がっている。 階段は険しい性格をしているが戦車に乗ると静まる。</p>	

	ヴィクトリア・ズミエフスカヤ ゾロトワ装甲騎士団12姉妹隊員
<p>旅団のプローションを持つ麗しの美女だがその美貌を気にする事も無く表情豊かで男気満々人懐っこい。 酒好きでその知識は相当な量で料理好きのナタズダも一目置いていて、ナタズダの作る料理に自らも女流の事の実験を楽しみにしている。</p>	

## ゾロトワ家旗艦「ヴェラーヤ・リーリヤ」


	ウキョウ・トルストイ ゾロトワ家旗艦飛行空母「ヴェラーヤ・リーリヤ」艦長
<p>ゾロトワ家の象徴と言われる巨大な飛行空母「ヴェラーヤ・リーリヤ」の艦長を務めるアレクサンドラが幼少期の頃から信頼を寄せている人物。</p>	


## ニューバ領鹵獲兵器運用部隊「ハイエナ隊」

	リュドミラ・ブルツェフ ニューバ領鹵獲機運用部隊 ハイエナ隊多脚戦車班
<p>鹵獲兵器専門運用部隊の一角でありヴァシュリタス製の兵器に対し高い知識と運用技術を持つ。 鹵獲した多脚戦車を基地に運搬する最中に偶然にもカンフマーチェン12号車マリアと遭遇し交戦する事となる。</p>	

	ゴラン・ヤシン ニューバ領鹵獲機運用部隊 ハイエナ隊多脚戦車班
<p>リュドミラに多脚戦車における知識を教え込んだ人物。砲撃者だが横に厚くハイエナ隊において人望も厚い。 鹵獲機を運用中にマリアと交戦する事となる。</p>	

	アーノルド・ズーフ ニューバ領鹵獲兵器運用部隊 ハイエナ隊司令
<p>ハイエナ隊司令。通称「熊」。 ヴァシュリタス軍の兵器全般への高い知識を持ち、鹵獲品の整備運用などにも豊富な経験がある人物。</p>	

	タラス・ヤクボフ ニューバ領鹵獲機運用部隊 ハイエナ隊多脚戦車班
---	--

	ワレリー・イゴーニン ニューバ領鹵獲機運用部隊 ハイエナ隊多脚戦車班
---	--



## Chapter .6 Alexandra

1941年7月3ヶ月に及ぶニューバ領での作戦行動を終了し12姉妹はゾロトフ領州都ニューバグロードに帰還した。

計画よりも早期の帰還であったがこれには理由があった。

ニューバ野戦飛行場で破損した多脚戦車の整備が行える先進的な設備はゾロトフ領内にしか無く、また機体構造の多くは機密事項であったためゾロトフ領管轄外での整備を原則禁止されていた。それと同時にヴァッシュリクス軍の新型戦車「カンフメーチェン」に関する現地で収集した情報を始め数多くの詳細な情報取りまとめ上官であるアレクサンドラに報告を行うためという事もあった。

アレクサンドラはブラウダ連邦正規軍の一角であるゾロトフ領駐留軍総司令官およびゾロトフ家私設軍隊であるゾロトフ家装甲騎士団、通称12姉妹の最高司令官を兼任していたがその水面下で各種秘密作戦を数多く指揮した人物でもあった。

12姉妹帰還と同じくしてもたらされた情報によって国内外の渾沌をかつて無い好機と判断し水面下で着々と進めていたある計画を実行段階に移す事を決定した。

後にこの計画は西方大戦を

ヴァッシュリクス共和国が引き金となった生存権確保のための戦争という図式から近隣の国々をさらなる戦渦と個々の思惑の飛び交う大きな歴史の渦に巻き込む切っ掛けとなっていった。





フラウダ貴族連邦  
ゾロトフ家  
当連邦を統括する  
七大貴族の一つであり

圧政を強いていた  
帝政フラウダに対して  
1920年代に行われた  
フラウダ民主革命の  
中心的な役割りを  
果たした事で知られている

# Aristocrat Federation Of P...

フラウダ貴族連邦



この時多くの民衆が  
武装蜂起したと同時に  
7大貴族が帝国から  
軍を離反させる事に成功し  
結果革命を成功に導いた

戦後民主化を  
民主議会制の導入  
それと同時に  
帝国の名残りである  
貴族制度の廃止を  
進めている中



ゾロトフ家を除く  
六貴族が戦中離反した  
軍を手中に収める  
帝国の遺産である  
利権の獲得に奔走し  
始めた

民衆からは猛烈な  
反発を受けるが  
六貴族はこれに対し  
武力鎮圧に及び民衆  
との衝突が頻発した



ゾロトフ家の説得も  
空しく  
抵抗した領民は  
容赦ない肅正の嵐に  
飲み込まれていった

その末に領土は  
貴族による分断統治が  
行われ帝政時代と  
何ら変わらない  
圧政がしかれる  
事となった

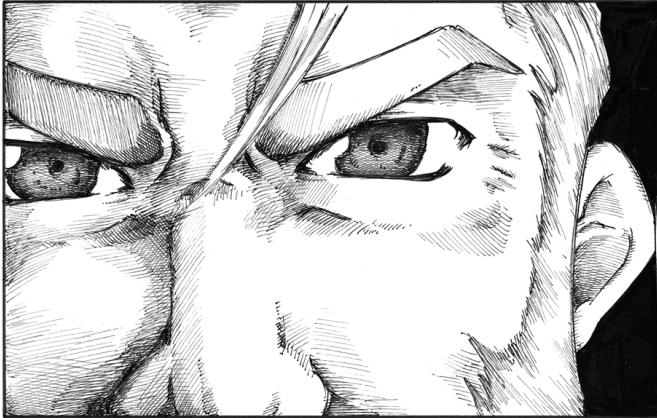


民主革命の  
指導者であった  
ウラジミールは  
その手腕を恐れられ  
政治の表舞台から  
追放された



その後ゾロトフ家は  
第二次革命を  
起こされぬようにと

貴族達による  
厳しい監視体勢の  
元に置かれ



しかし彼には2つの可能性があった  
一つは西方大戦による国内外の混乱

もう一つは自身の  
子供達であった



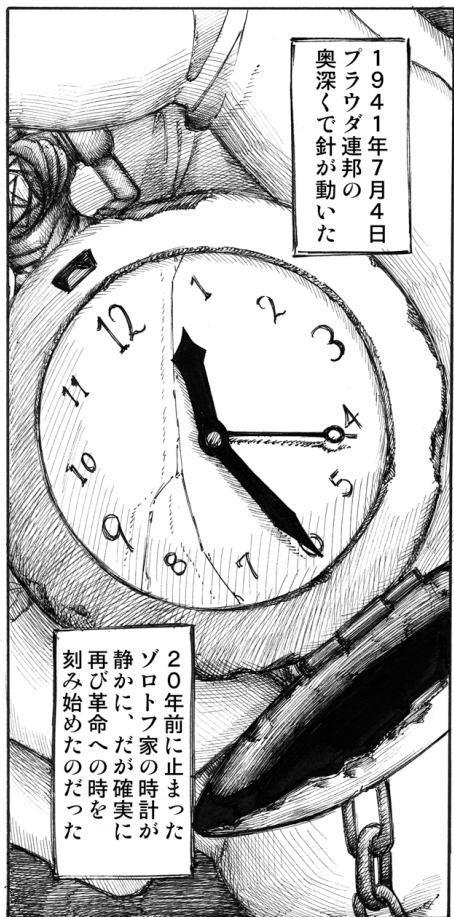


そしてゾロトフ領  
駐留軍最高司令官  
肩書きを持ち、  
指揮を執る一方で

ニューバ進駐軍の  
領民退避は計画の  
8割を完了したと  
通達がありました

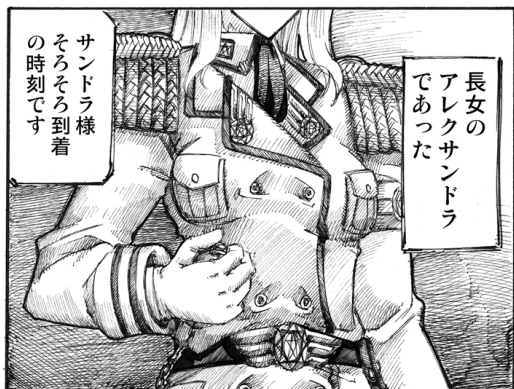
御苦労様

監視体勢の綻びを  
くぐり抜け  
水面下で数多くの  
極秘作戦の  
指揮をとったのが



1941年7月4日  
フラウダ連邦の  
奥深くで針が動いた

20年前に止まった  
ゾロトフ家の時計が  
静かに、だが確実に  
再び革命への時を  
刻み始めたのだった



長女の  
アレクサンドラ  
であった

サンドラ様  
そろそろ到着  
の時刻です

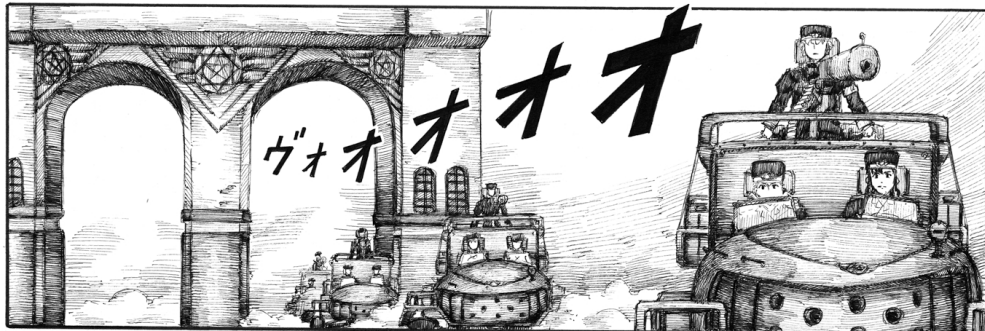


もうそんな時間？  
する事が多いのは  
あつと言う間ね

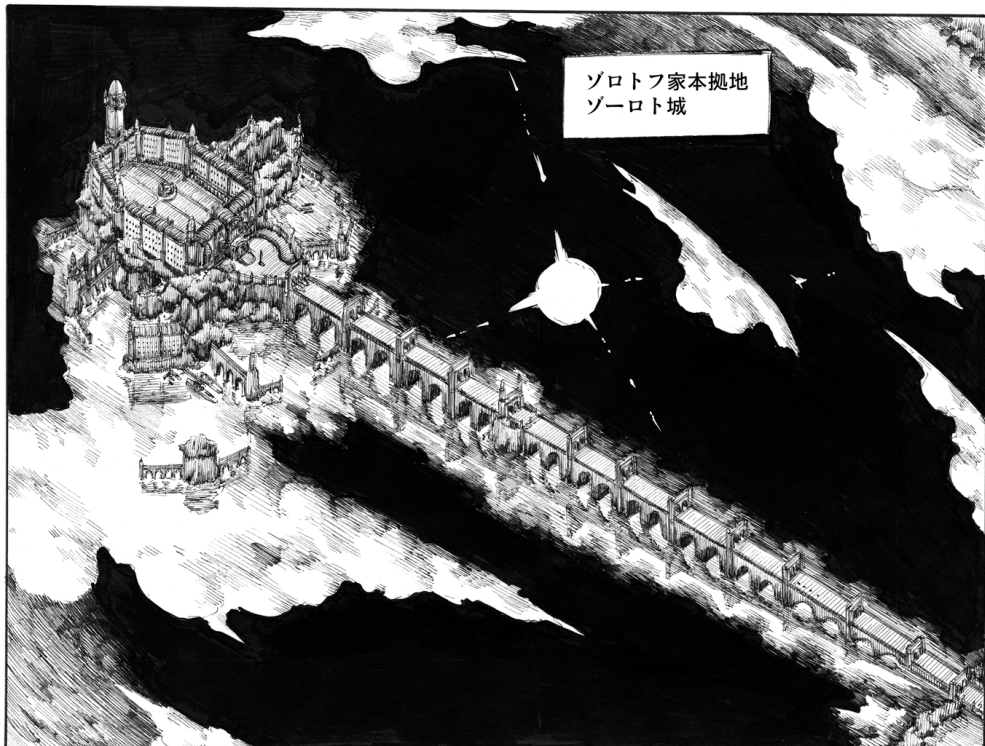
ブラウダ連邦ゾロトフ領  
州都ゾロトグラード

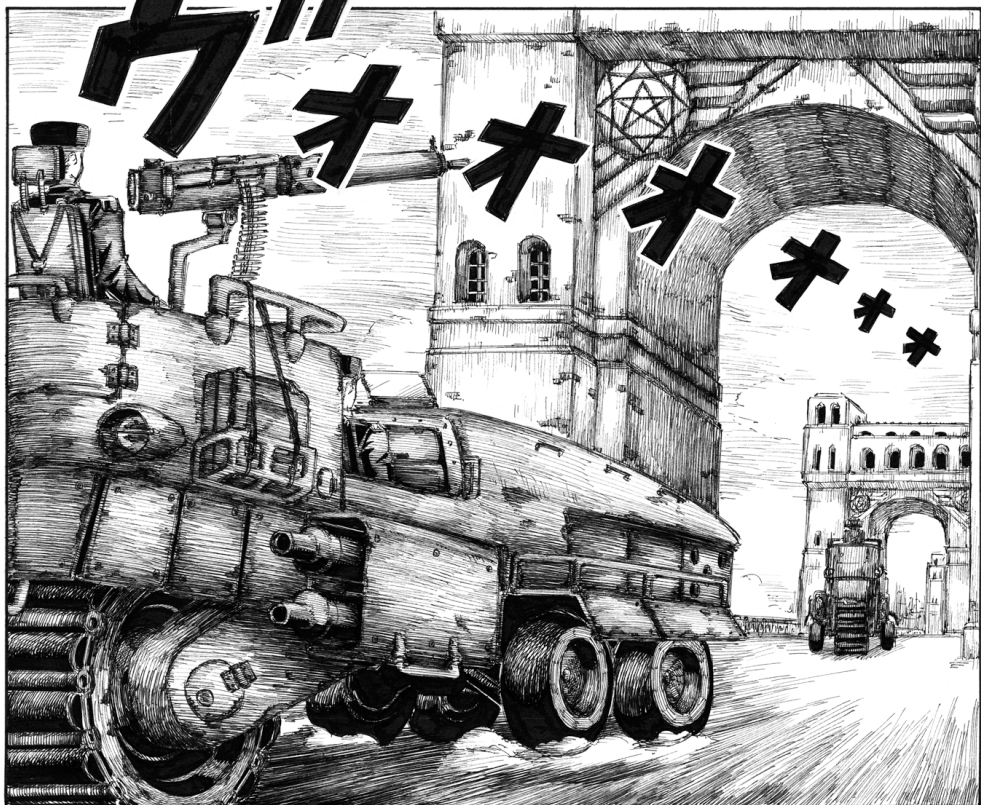
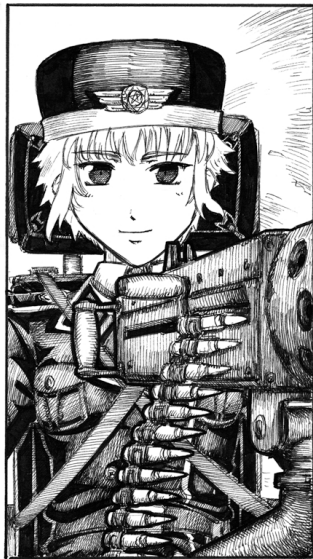


ヴォオ オオオ

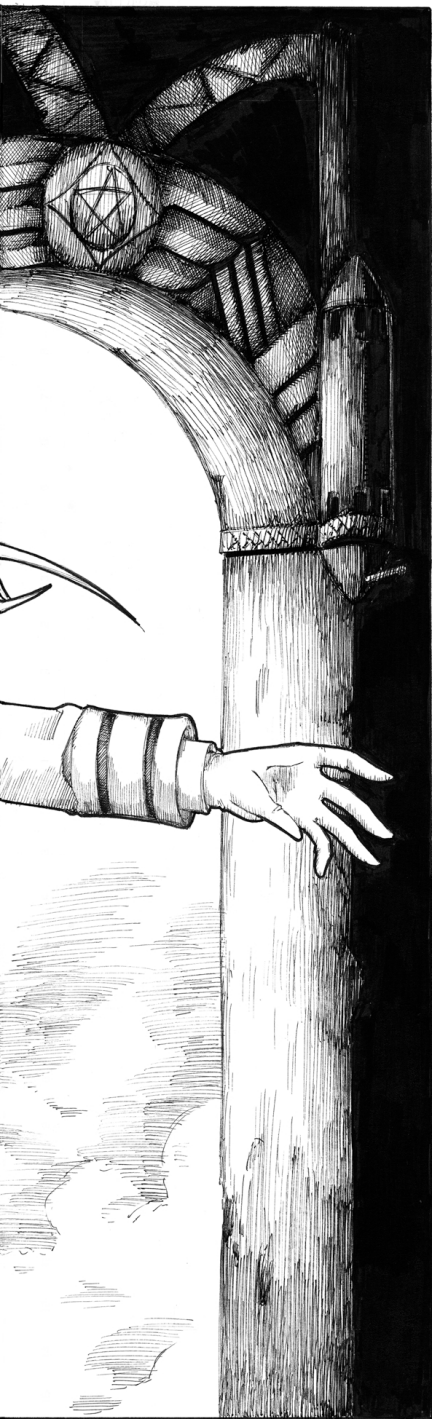


ゾロトフ家本拠地  
ゾーロト城





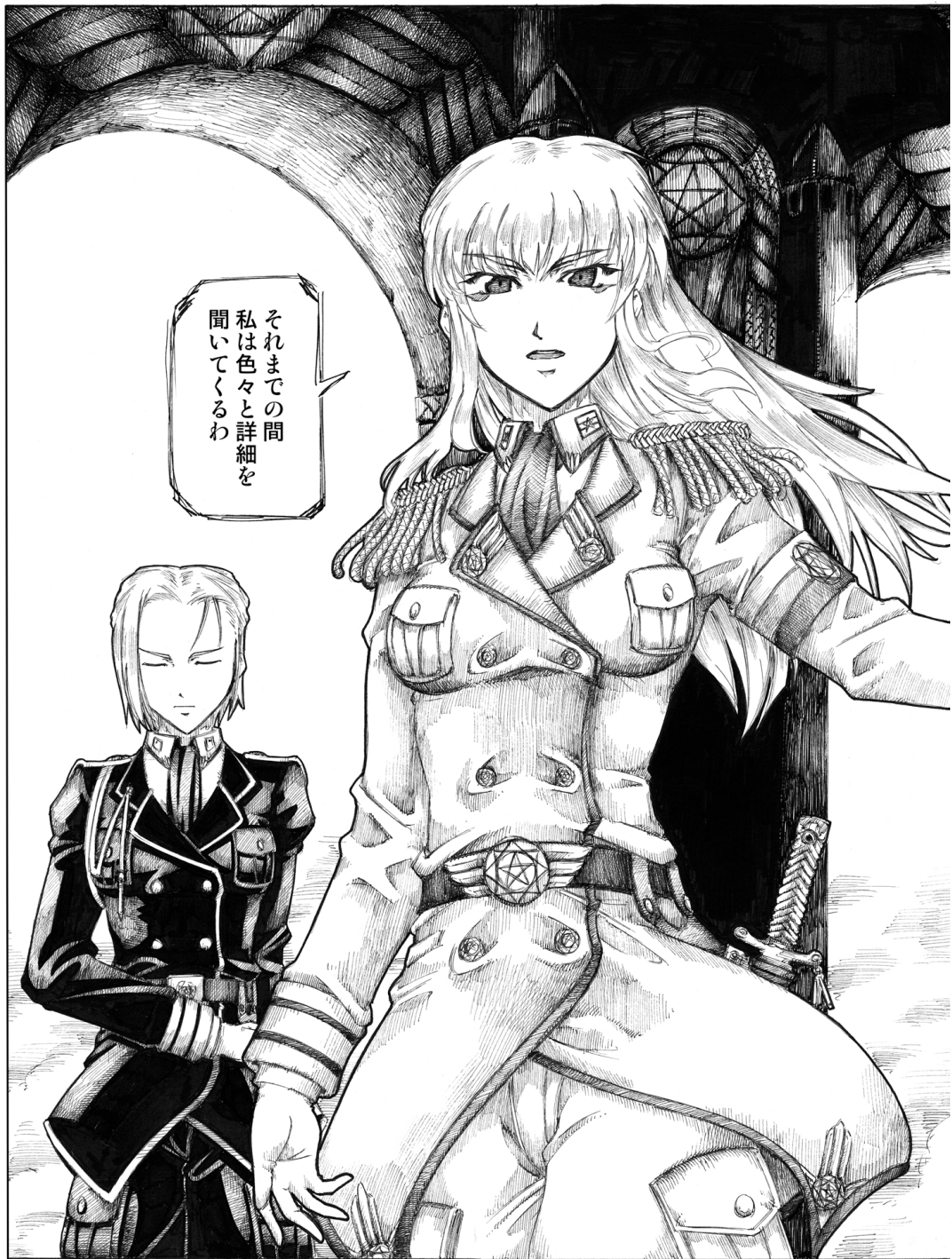




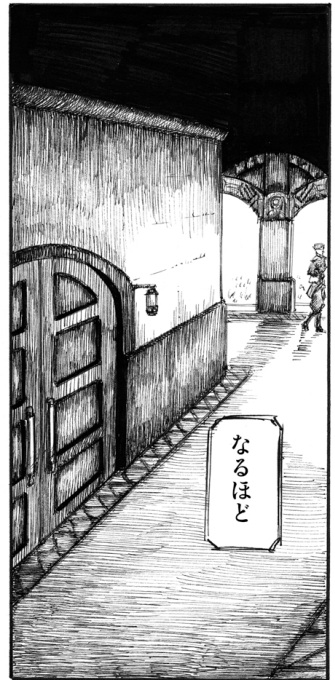
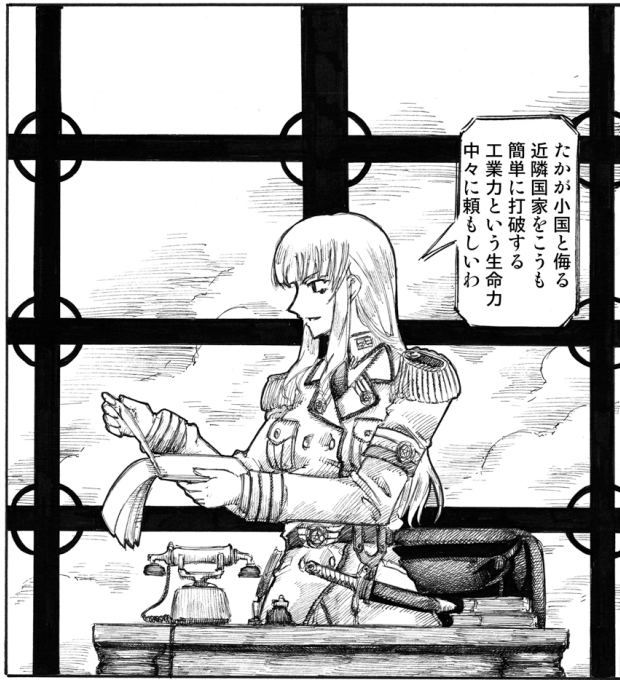
フリサ  
皆を労いたいから  
その準備をお願い  
完了次第呼びに来て

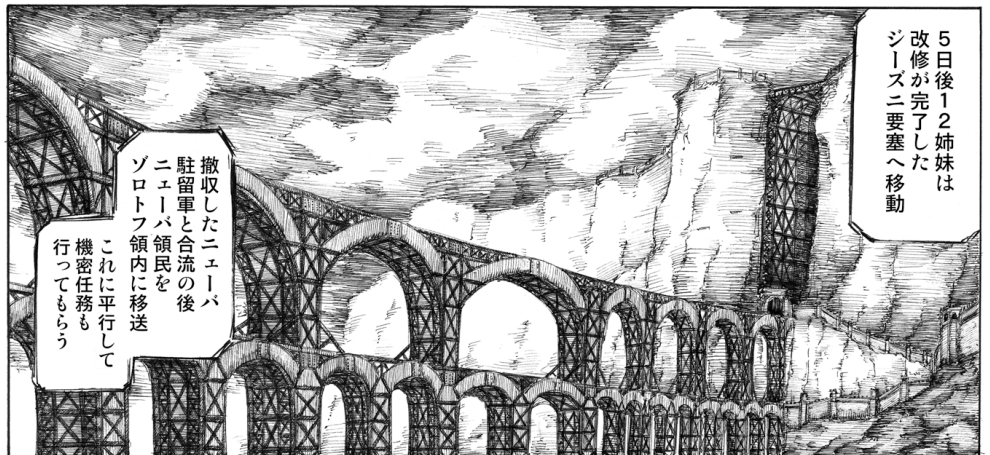
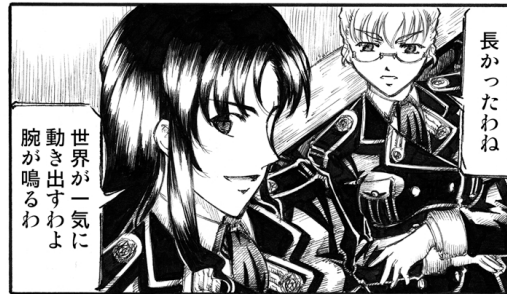
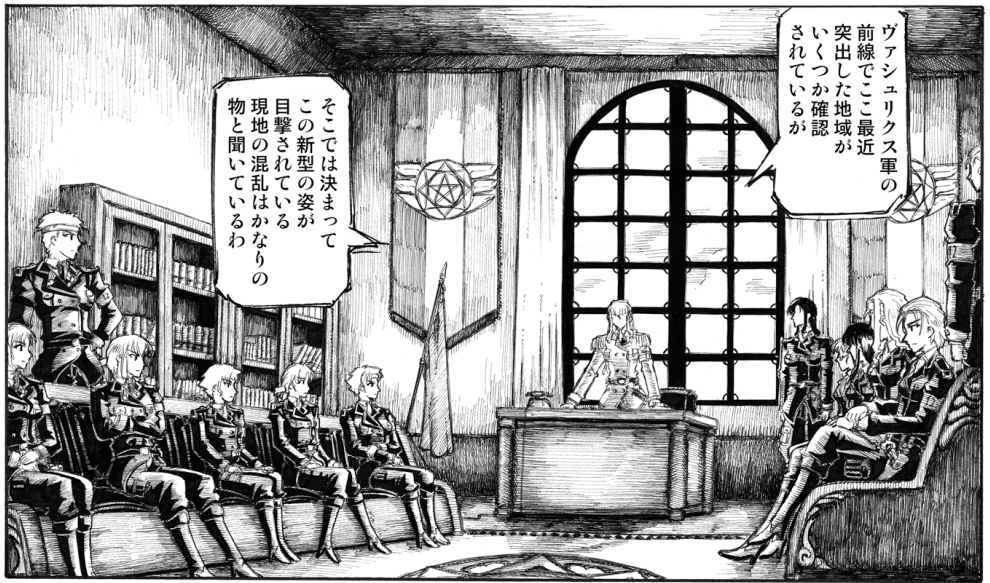
ブラウダ連邦ゾロトフ領  
ゾロトフ駐留軍兼ゾロトフ装甲騎士団最高司令官  
アレクサンドラ・ウラジミロヴナ・ゾロトフ





それまでの間  
私は色々と詳細を  
聞いてくるわ







書簡・冬將軍・同盟締結  
そしてヴァシユリクス停戦  
と同時に第2次民主革命  
絶妙なタイミングが必用よ

私たちはその  
タイミングの正確な  
設定を行うのですね？



姐御も  
御同行を？

ここは監視が厄介なのよ  
州都は兄様に任せて  
私は要塞でこれからの  
執務を行うわ



そうなるわ。  
その為には今まで通り  
ヴァシユリクス軍を  
足留めする事も  
あるでしょうし

もしこのタイミングに  
遅れが出るような  
事があれば  
彼等を助ける事も  
必用になるわ

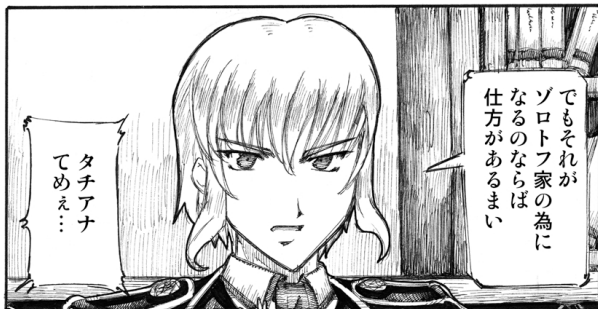


ちよつと待てよ姐御！  
同志を殺せて言うのか！  
正規軍はあたし等の  
古巣なんだぜ！

障害であつても  
同志に牙を  
向けるのは  
反対です！

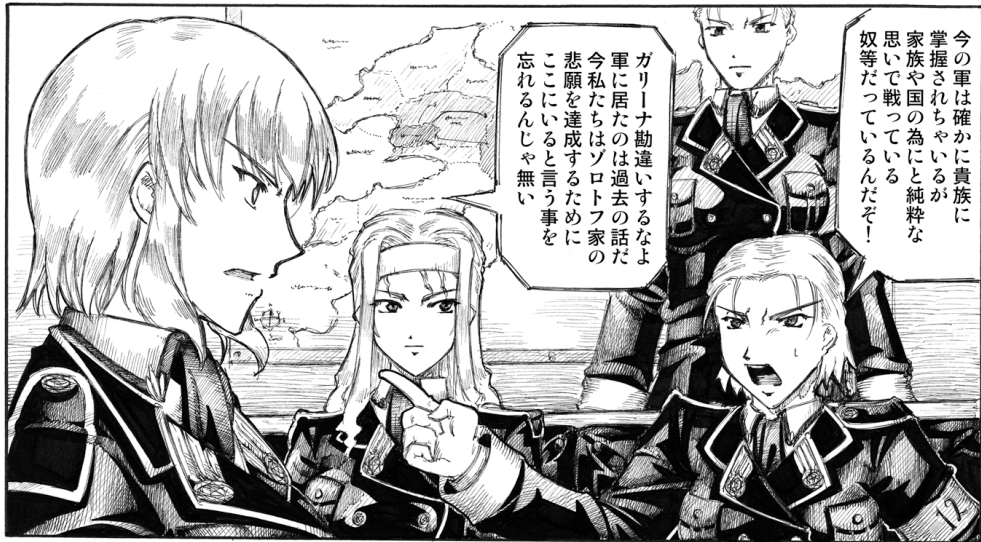


その為にはたとえ  
友軍であろうと  
例外なく速やかに  
始末してもらおうわ



でもそれが  
ゾロトフ家の為  
なるのならば  
仕方があるまい

タチアナ  
ためえ…



今の軍は確かに貴族に  
掌握されちゃいるが  
家族や国の為にと純粋な  
思いで戦っている  
奴等だっているんだぞ！

ガリーナ勘違いするなよ  
軍に居たのは過去の話だ  
今私たちはゾロトフ家の  
悲願を達成するために  
ここにいると言う事を  
忘れるんじゃない



この計画を完遂する為には  
容赦はいらないの  
敵にもそして味方にも！！



ゾロトフ家にはもう後が無いわ  
もしこの計画が失敗したら  
今度こそフラウタは果てない  
仄政の闇に閉ざされるわ



背中が鋭く寒い：  
本気で殺意を向けてきやがる  
ゾロトフの為には  
背中を預ける仲間さえ  
例外は無いのかよ…

う…チツ



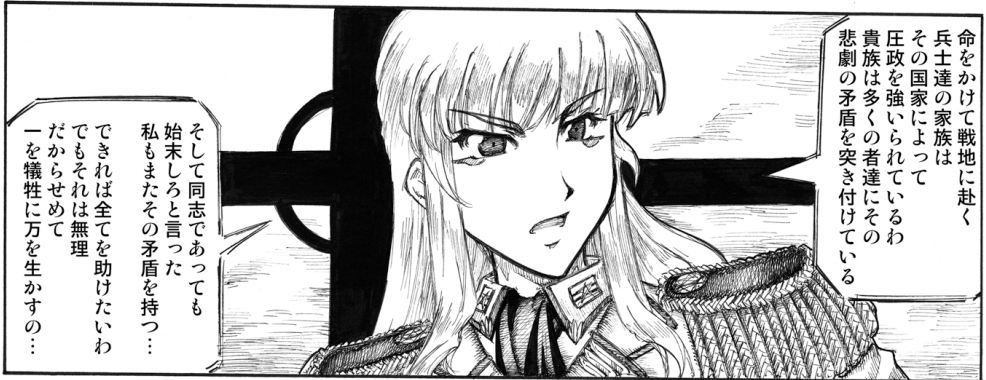
確かに軍には家族  
そして国家の為に  
戦いに赴くものも多い  
あのニューバでさえ…

しかしその国家が  
民も兵も  
裏切っているのよ



ガリーナの言いたい  
事も理解はしているわ

サンドラ様…



命をかけて戦地に赴く  
兵士達の家族は  
その国家によって  
圧政を強いられて  
貴族は多くの者達に  
悲劇の矛盾を突き付けている

そして同志であつても  
始末しろと言つた  
私もまたその矛盾を持つ…  
できれば全てを助  
けたいわ  
でもそれは無理  
だからせめて  
一を犠牲に万を生かすの…



そもそを言えば  
この矛盾の輪廻  
20年前の革命で  
滅ぶべきものだった

あの時の父上は  
最大の功績を収め  
最悪の失態を犯した…  
その功績は民の想いを  
信じ全てを賭けた事  
想いは国を動かしたわ



国への想い、家族への想いが  
矛盾に巻き込まれる事も無く  
貴族や権力によって  
歪められる事も無い世界  
私は民をその場所に導きたい

……

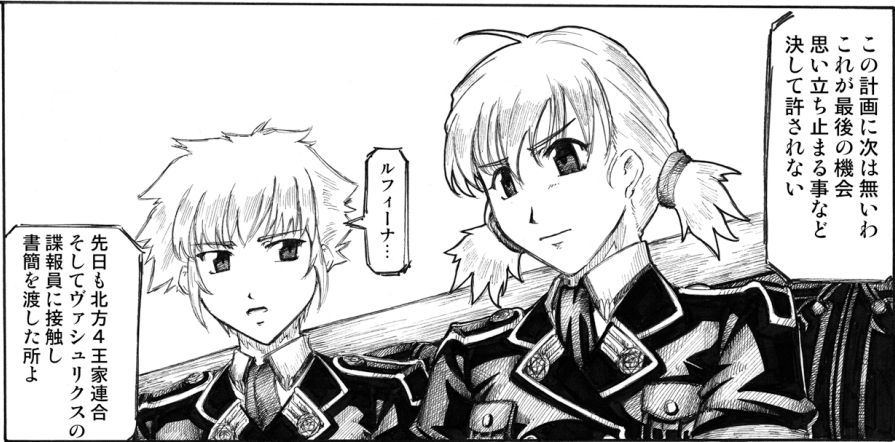
そして最悪の事態は  
貴族を信じてしまった事……  
貴族の上辺を  
信じてしまったがために  
民と共に生きる明日を  
最後の最後に裏切られたわ

夢を信じ、理想に輝き  
血と銃弾と泥の雨を  
必死の思いで耐え抜き  
すがるように掴み取った  
民主化という夜明けの空を

肅正の血を持って  
赤い絶望の底に  
叩き落としたのよ

父を欺き民を裏切り  
平和への願いも  
幸福への思いも  
それを望む意志さえも  
踏みじった貴族達を

私は……  
決して許さぬ



この計画に次は無いわ  
これが最後の機会  
思い立ち止まる事など  
決して許されない

ルフィーナ:

先日も北方4王家連合  
そしてヴァンシュリクスの  
諜報員に接触し  
書簡を渡した所よ



失敗の先にあるのは  
大地が赤く染まる程の  
肅正と我々と協力者への  
果てない陵辱よ

この世界を股にかけた  
一回限りの綱渡り  
私の命に代えても  
必ず遂行してみせるわ!!



動き出した時計は  
残酷な程平等に進むわ  
敵の好機を与え奪い:  
また我々に好機を与え  
そして奪うものよ



ここから先重要なのは  
計画を支援なく進め  
敵の好機を封じ  
自らに訪れた好機を  
一つたりとも逃さない事